

# JA総合営農研究会 第70回記念公開研究会

## 2025年センサスから見える 日本農業の課題と将来展望を考える

～JA営農経済事業の役割は何か～

2026年 **3月17日(火)** 13:00～17:00 **18日(水)** 9:00～12:00

会場 **JAビル32階 3207・3208会議室** (全農) オンライン参加可(zoom使用)

### 開催趣旨

JAグループ・JA・メンバーJA及び生協、食品業界、多くの研究者のみなさまの深いご理解とご支援をいただく中で本研究会も70回の節目を迎えることが出来ました。顧みれば、我々JA総合営農研究会の存立基盤は、大きな使命をもつ生命総合産業である「農」をそれぞれの地域特性を活かし、組合員の皆様と共に営農・経済事業を通じて発展させることであります。同時に、営農・経済事業の革新を通じて消費者の日常的な生活を支えることでもあります。

「第70回記念公開研究会」は、まず、ベースとなる農業・農村及び農産物の消費・流通の大きな変容、さらには産業としての「農業・関連産業」の実態を明らかにする研究会企画といたしました。それを踏まえて、農業・農村、農産物の消費・流通の根本的な課題や、農業・農村のあるべき姿、将来展望等を大胆にご示唆いただき、メンバーJAの「学びと実践の起点」となる研究会企画ともいたしました。そのために各分野でトップの見識と実践のある研究者、実践者を迎えるとともにJAグループからの課題提起を行ないます。本研究会は、2001年の創立以来25年、JA営農・経済事業を支える組合員・JA担当職員の拠り所として「共に悩み、共に新たな解決策を見出し実践する道場」としての役割と機能を果たしてまいりました。とりわけ今回は、2025年農業センサス結果を中間解析した「真の農業・農村実態」や、農産物の消費・流通の変化を直視し、協同活動の中核的指針をJAグループ、メンバーJAと見出し、本研究会の責務を全うする2日間したいと思います。

### 発表者と発表内容

基調講演  
①

**農産物のバリューチェーンとイノベーション  
～資材・営農・販売を繋ぐ～**

齋藤修 (千葉大学名誉教授)

基調講演  
②

**2025年センサスから見える日本農業の姿**

安藤光義 (東京大学大学院 農学生命科学研究科教授)

事例報告  
①

【野菜・果物流通の現場から】

**野菜・果物流通の現場から考える  
日本農業の現状と未来** (仮)

高橋謙一 (JA全農青果センター株式会社 経営企画部 部長)

事例報告  
②

【営農指導の現場から】

**営農指導機能体制整備方針がめざすもの** (仮)

高塚明宏 (全国農業協同組合中央会 営農・担い手支援課 課長)

事例報告  
③

【JAの米流通の現場から】

**現場から見るこれからのJAの役割  
～米どころJAの現場から～**

中江吉治 (JAグリーン近江 副組合長)

**JA総合営農研究会**  
(旧JA-IT研究会)

- 全国農業協同組合中央会 (JA全中) 営農・担い手支援部営農・担い手支援課内
- 全国農業協同組合連合会 (JA全農) 耕種総合対策部統括課内
- 一般社団法人農山漁村文化協会 (農文協) 経営局文化活動グループ内

〒335-0022 埼玉県戸田市上戸田2-2-2 TEL:048-233-9336 FAX:048-299-2815

